

平成30年
2月



社協だより

発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826



月刊

春のプレーパークin狩小川

プレーパークとは、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとした禁止事項のない冒険遊びの場のことです。「汚れるから」「危ないから」と大人がやめさせてしま

うのではなく、火や水、木などの自然素材、ダンボールなどの廃材やノコギリ・かなづちなどの道具を使い、子ども達で工夫しながら自由に遊ぶ場所です。あぶなつかしい遊びかも知れませんが子ども達は遊びの中から他人とのかかわりや危険を避ける方法を学び「生きる力」を身につけていきます。今回は、三月十八日(日)自然豊かな三篠川の河原と林を使って子ども達の遊びを展開します。

この案内文を読んだ時、中高年以上の方々には、野山や小川で時を忘れて遊んだご自身の幼い頃を懐かしく思い起こされた事でしょう。

プレーパークには、子ども達の成長を促すだけでなく、保護者や地域の方にも学びの場があります。プレーパークを通じて、子ども達の成長を促すだけでなく、保護者や地域の方にも学びの場があります。

講演会「広島藩から見た幕末」開催

昨年は大政奉還百五十年、今年には明治維新百五十年という事で、あちこちでイベントが催されるようです。我が狩留家では一月十七日狩留家郷土史研究会主催で集会所において「広島藩から見た幕末」という演題で講演会が開催されました。

講師は作家で幕末研究家の穂高健一氏。穂高氏は神機隊の高間省三を描いた「二十歳の炎」の作者です。明治維新は薩摩

のびと冒険を楽しめる場所となっていました。河原では河石を集めてかまどを作り、缶でご飯を炊く、災害時食べる物が確保できない時を想像して缶で炊いたご飯を昼食にする体験も強い子どもを育てる良い体験となると思います。

プレーパークが始まって今年で四年目、この素晴らしい冒険遊びを一人でも多くの子どもの身に体験して頂きたいです。また、見守る大人たちのゆったりとした眼差しもプレーパークの大切な要素です。(会長記)

と長州が活躍したように、広島浅野藩が重要な役割をしていたという事を力説されて、今まで知らなかった、目からうろこだと言われた方もいました。歴史から学んで今を考えたい。べきだという事でした。講演の後、先生を囲んで茶話会が開かれ次々に質問が出され、あつという間に時間が経ってしまいました。狩留家郷土史研究会では今後も神機体屯

理事会報告

平成三十年二月十三日
一、第二次福祉の町づくりプラン策定
二、新春文化講演会についての反省
三、春のプレーパークin狩小川について(三月十八日)
四、中須賀橋竣工式について(三月十日)

サークル探訪

カラオケあじさい

私たちは、「カラオケ教室あじさいグループ」です。現在十名の部員で成り立っています。毎月第二、第四火曜日午後一時三十分から二時間練習をしています。私たちのモットーは、「全員七十歳以上なのでグループに出席して腹から大笑いして、大好きな歌をうたい、おしゃべり等をしてストレス発散をして認知症の予防になれば」との思いで楽しくやっています。

狩留家編物教室

第一第三の月曜日に九時〜十一時まで狩留家集会所で手編みを習っています。とても気さくな先生で優しく教えてくださいます。間違っているとところが分からなくて聞きに行くとすぐに見つけてくださり、さすがです。仲間のみなさんと和気あいあいと自分の編みたいものを編んでいます。手編みに興味のある方、私たちと一緒に手と口を動かしてみませんか？

一月資源ごみ売上 二万三千円